

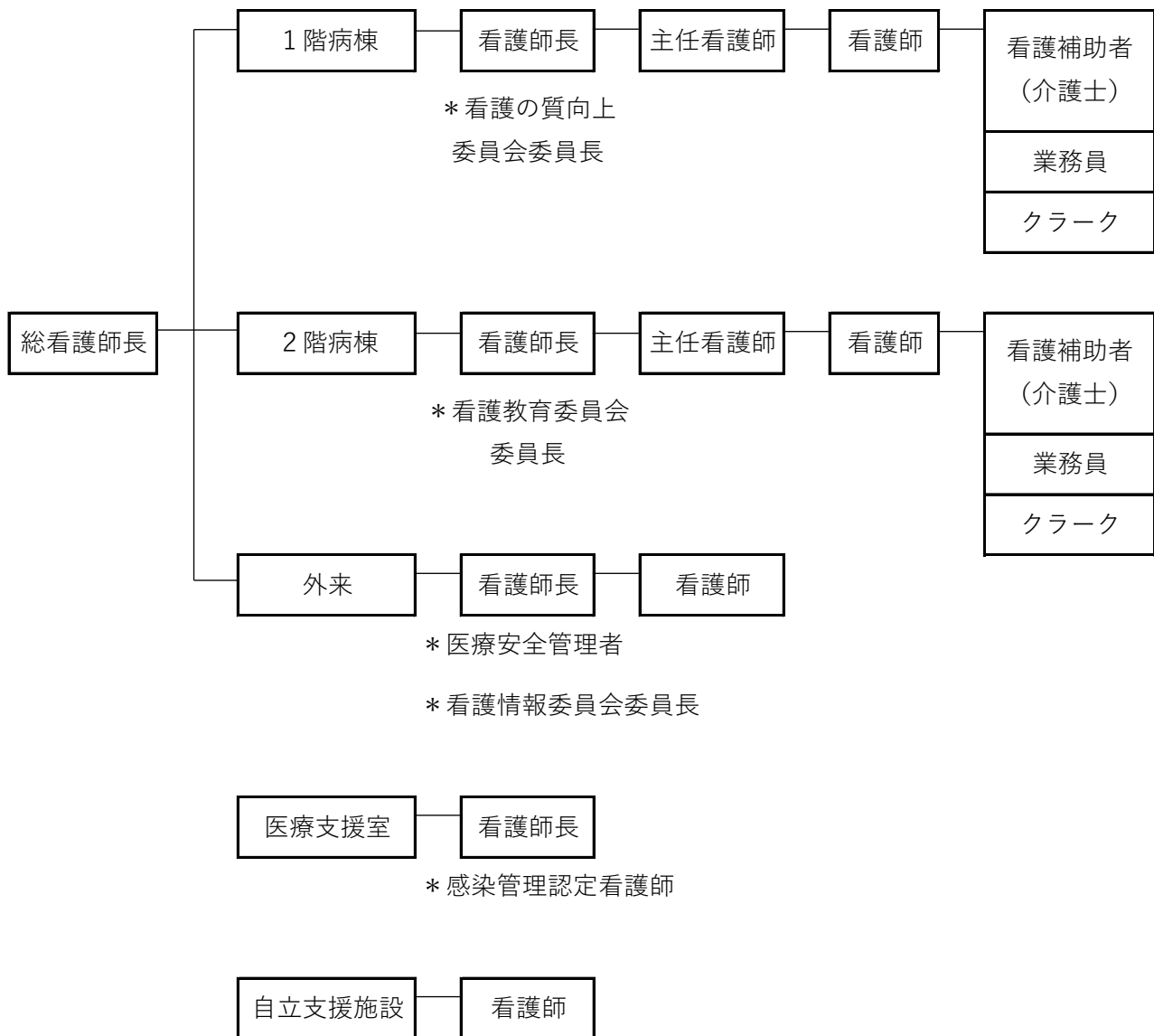
広島市立リハビリテーション病院

目次

1. 看護科組織図	76
2. 病院理念・看護科理念、基本方針	77
3. 看護科 BSC	78
4. 看護科教育	
1) 看護師・介護士教育	79
2) 新人教育	84
3) 資格（看護協会、学会認定等）	86
4) 院内資格	86
5. 看護活動	
1) 認定看護師活動	87
2) 学会・誌上発表	88
3) 社会貢献	88
4) 講師	89
6. 隣地実習受入校	89

1. 広島市立リハビリテーション病院看護科組織図

2022/4/1



2. 理念

病院理念

私たちは、利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと心豊かな生活ができるよう良質で信頼される総合的なリハビリテーションサービスを真心をこめて提供します。

看護科理念

私たちは、利用者の皆さんの立場を尊重し、「その人らしい生活」の再構築を支援するため、質の高いリハビリテーション看護を提供します。

看護科の基本方針

- 1) 利用者の皆さんの自己決定を尊重し、誠意をもった細やかな対応をします。
- 2) 事故防止に努め、安全な看護を提供します。
- 3) チーム医療の一翼を担い、専門性の高い科学的根拠に基づいた看護を提供します。
- 4) 急性期および地域医療との連携を強め、満足していただける看護を実践します。

3. 令和4年度看護科のバランススコアカード

目標：時代の変化に伴う多様なニーズを尊重し、専門職として、知識・技術の向上に努める

	経営シナリオ	各視点の戦略目標 重要成功要因：CSF	重要業績評価指標 (KPI)	KPI オーナー	R3 年度の実績
顧客の視点	利用者とのパートナーシップの構築 地域連携強化 安心安全な医療の提供	利用者との信頼関係の構築 地域との信頼関係構築 学生実習受け入れ (看護学生・中学生) 市民病院との連携により信頼関係の構築	患者満足度調査 接遇研修参加率 新規入院患者数 出前講座件数 学生受け入れ人数	看護師長 総看護師長	患者満足度 95.7% 接遇研修参加率 100% 新規入院患者数 495 人 学生受け入れ人数延べ 234 人
		安心安全な看護の提供	IA 報告件数研修会参加率 院内感染発生件数 研修会参加率 褥瘡発生率・持ち出し件数 医療関連機器圧迫創傷有病率 スキンテア発生件数 急性増悪転院患者数 膀胱留置カテーテル離脱率	医療安全管理者 感染対策委員 褥瘡対策委員 看護師長 総看護師長	IA 報告件数レベル 0 673 件 レベル 3b 以上 5 件 リスク研修会参加率 100% 院内感染発生数 17 件 感染研修参加率 100% 褥瘡推定発生率 0.7% 持ち出し件数 0 人 医療関連機器圧迫創傷有病率 2.0% スキンテア発生有病率 0.4% 急性増悪 9.8% 膀胱留置カテーテル離脱率 24.5%
財務の視点	医療収益の向上	病床利用率の向上 算定もれの防止	病床利用率 認知症ケア加算 1 算定件数 リハ総算定料算定率 摂食機能療法件数 摂食嚥下支援加算件数 排尿自立支援加算	看護師長 総看護師長	病床利用率 93.8% 認知症ケア加算 1 算定件数 7805 件 リハ総算定料算定率 79.2% 摂食嚥下支援加算件数 527 件 排尿自立支援加算 739 件
		看護外来の継続	フットケア外来患者数	皮膚排泄認定看護師	68 人
		外来収益の向上	外来患者数 専門外来 (摂食嚥下障害評価 外来等・難病外来) 患者数 フットケア外来患者数	外来看護師長 総看護師長 皮膚排泄ケア認定看護師	外来患者数 23.6 人/日 専門外来 (摂食機能障害評価外来等) 79 件 フットケア外来の拡充 68 件
		医療保険による退院後訪問指導 介護保険による訪問看護	退院後訪問指導件数 訪問看護件数	看護師長	退院後訪問指導件数 4 件 訪問看護件数 0 件
内部 (業務) プロセスの視点	チーム医療の推進 質の高い リハビリテーション看護の提供 看護科リソースを活用 在宅復帰率の向上 機能評価準備を通じて看護の質向上を図る	NST 介入による低栄養の改善 個別訓練実施による訓練強化 病棟訓練実施による訓練量の確保 脊損バスの導入	NST 介入患者数 個別訓練実施数 病棟訓練実施数 脊損バス実施患者数	NST 委員 介護士 看護師長 総看護師長 回復期リハ看護師	NST プレ介入患者 15 名 摂食嚥下支援加算延べ 527 件 病棟訓練実施数 延 11260 人 脊損バス実施患者数 10 人
		在宅復帰のための支援を強化 入院患者の ADL 向上のための グループ活動を持続し、 FIM の改善と ADL 自立への サポートを実践 認定看護師を活用し看護の質向上を図る	重症率 在宅復帰率 実績指数	認定看護師 リハビリ看護師 看護師長 総看護師長	重症率 38.9 在宅復帰率 90.5% 実績指数 47.7%
		機能評価の評価項目を理解し、実際の 場面での課題を抽出し改善を行う	課題抽出	看護師長 主任看護師	R4 年度 機能評価に向けた 体制整備
学習と成長の視点	看護師長・主任の マネジメント能力の向上 看護スタッフの実践能力 の向上 職員満足度の向上	看護管理に関する勉強会	看護管理研修会の開催 管理ラダーの構築	総看護師長	管理ラダー構築終了
		ナースングスキル研修参加 介護士ラダーの構築	研修参加件数 介護士ラダーの構築 研究発表	教育委員会 看護師長 総看護師長	研修参加件数 24.9 回/年/人 看護師ラダーⅠ取得 86% Ⅱ取得 72.0% Ⅲ取得 38% Ⅳ取得 9% 管理ラダー・介護士ラダーの構築 研究発表 1 件
		職員満足度の向上	職員満足度評価調査 夜勤アンケート調査 年休取得日数 離職率 時間外の削減 メンタルヘルスチェック回 数	心理療法士 看護師長 総看護師長	職員満足度評価調査平均 3.6 夜勤アンケート調査 実施 年休取得日数 平均 9.6 日/年 離職率 8.7% (6 人) 時間外 174 時間/年 メンタルヘルスチェック回数 2 回

R4 年度の 目標値	アクションプラン 実施項目	年度末評価 実施項目
患者満足度 96.0% 接遇研修参加率 100% 新規入院患者数 500 人 学生受け入れ人数 延べ 700 人	・患者満足度調査の実施 ・接遇研修を看護科全体で実施するとともに各部署でも 1 回以上研修をする ・新規入院患者数をモニターする ・出前講座を行っていることを広報する ・学生の実習を受け入れる	・患者満足度調査を 8 月と 2 月に実施した。8 月の入院患者のアンケート結果は、良いや良いが 69.8%、2 月は 65.4%と昨年の平均 87.1 と比較してもかなり悪い数値であった。要因として、8 月と 1 月に院内でコロナ感染の発生があり、面会禁止や外出訓練や家屋調査の患者同行禁止などの厳しい感染対策の影響が考えられる。また、重症率が引き上げられたことにより、「分からない」と回答された患者が 11 人あり、悪い結果の集計に「分からない」の回答者が含まれた影響があったと考える。 ・接遇研修を看護科全体で実施した。ナースングスキルでの学習で、参加率は 100%であった。看護の質委員会を中心に身だしなみチェックや接遇標語を月毎に提示しながら、職員への意識付けに取り組んだ。 ・新規入院患者数は 454 人で昨年より 40 人少なかった。機構内からの転院が 46.1%と昨年より 7%下がっている。機構内病院と県立広島病院、広島赤十字・原爆病院、大学病院で 74.5%を占めている。脳血管疾患が 50.9%、整形外科が 29.9%、神経疾患が 7.5%であった。 ・出前講座は中止。感染対策目的で安田女子大学の実習受け入れは中止となったが、市立看護専門学校の実習は延べ 245 人受け入れた
IA 報告件数レベル 0 700 件 レベル 3b 以上 4 件 リスク研修会参加率 100% 院内感染発生数 5 件 感染研修参加率 100% 褥瘡推定発生率 0.3% 持ち出し件数 0 人 医療関連機器圧迫創傷有病率 2.6% スキントピア発生率 0.3% 急性増悪 3% 膀胱留置カテーテル離脱率 95% 気管切開チューブ離脱率 50%	・リスクの研修会に積極的に参加する ・IA 情報を職員間で共有するため、IA カンファレンスを実施する ・感染の研修会に積極的に参加する ・手洗いを遵守する。PPE を適正に使用する ・アフトブレイクを防止する ・医療関連機器圧迫創傷 (MDRUP) の早期発見早期治療を行う ・急性増悪転院患者数をモニターする ・膀胱留置カテーテル離脱率をモニターする ・気管切開チューブ離脱率をモニターする	・リスク研修会を 2 回/年開催。参加率は 2 回とも 100%であった。 ・IA 総数 1726 件 インシデントは 1636 件、アクシデント 14 件、暴言暴力 76 件であった。そのうちレベル 0 は 562 件、レベル 1 は 698 件、レベル 2 は 286 件、レベル 3a は 90 件であった。レベル 3b の 14 件については、転倒・転落が 7 件、針刺しが 2 件、情報漏洩 1 件、気管カニューレ抜去 1 件、離院 1 件、腸渾閉塞 1 件、カードキー紛失 1 件であった。アクシデント事例については、RCA 分析で要因分析を行いリスクカンファレンスで対策を話し合った。その他のレポートについても対策について全例カンファレンスを行い検討した。環境要因による事象については、リスク小委員会によるラウンド実施し、現場確認と同期に対策立案、その後の対策評価を行った。 ・感染研修：職員の 100%が参加した。ナースングスキルでの学習と実技研修は手洗い・PPE の実践を行った。院内感染発生は 4.72%、持ち込み 44 件であった。 ・褥瘡有病率は 3.4% (R3 年度 2.5%)、褥瘡推定発生率は 0.3% (R3 年度 0.7%)に比較して下がっている。全国一般病院平均 2.09%と比較して高い数値となった。医療関連機器圧迫創傷有病率 1.6% (R3 年度 2.0%)、スキントピアの発生有病率 0.8% (R3 年度 0.4%)であった。発見時には早期治療を行っている。 ・急性増悪転院患者数は 48 人 10.6% (R3 年度は 49 人 9.8%)であり、重症患者を早期受け入れすることで状態が急変し元の急性期病院へ転院となる患者が増えた影響と考える。 ・膀胱留置カテーテル離脱率は 29%で (R3 年度 24.5%)であった。 ・排尿自立支援加算介入件数 712 件で R3 年 742 件に比べ若干減少した。 ・気管切開チューブ離脱率は 50%であった。1 名は意識障害のある患者で、気管切開チューブを挿入のまま在宅退院となったため、家族指導を行ない訪問看護へ繋いだ。
病床利用率 95% 認知症ケア加算 1 算定件数 7850 件 リハ総算定料算定率 79.2% 摂食嚥下支援加算件数 530 件 排尿自立支援加算 750 件	・空床期間を最小限にするため退院情報を早めに把握する ・主治医・医療連携担当者との情報交換を頻回に行う ・各チームの加算算定状況を把握する ・医事課と情報交換を行い、算定漏れを把握する	・病床利用率 91.2%。8 月と 1 月に院内でコロナ感染発生したことで入院受け入れを中止した影響もあり、目標には届かなかった。平均在院日数は 72.3 と昨年より微増しており、重症患者の受け入れが増えた影響と考える。 ・認知症ケア加算 9,917 件であり、昨年と比較し 2,110 件上回り、収益も増額した。 ・リハ総算定率については、運用方法を変更したことで 100%取得できた。 ・摂食嚥下支援加算は 571 件、排尿自立支援加算は 712 件と、昨年と比較し微増しており、収益も増額することができた
糖尿病罹患 フットケア外来 新規患者 5 人	・糖尿病罹患患者等新規フットケア患者を増やすため、退院患者に広報する	・フットケア患者 55 名であり、そのうち糖尿病罹患患者は 20 名であった。新規患者は 3 名であり、目標値には届かなかった。さらに患者を増やすため、HP 上で広報を行うことやコア看護師育成に力を入れている。
外来患者数 20 人/日 専門外来 (摂食機能障害評価外来等) 90 件 フットケア外来の拡充 70	・病棟の廊下などに外来リハを行っているポスターを貼る ・誤嚥を観察し、必要であれば地域担当者と連絡を行い、患者の安全に配慮する ・皮膚科医と連携し、フットケアが必要な患者をピックアップする。外来や病棟にフットケア外来を行っている広報をする	・MRI 件数は 610 件 (外部 511 件、入院患者 99 件)であった。R3 年 331 件と比較し増加している。 ・外来患者延べ人数は 8,077 人 1 日あたりの外来患者数は 33.2 人であった。R3 年の 5,690 人 (23.6 人/日)より外来患者は増加している ・R4 年度より、機能神経外来を開始したことも影響し、外来収益は、85,535,910 円で、前年度より 2,637,910 円の増収となっている ・専門外来は高次脳機能障害外来が 2,971 人神経難病リハ外来 1 人、摂食嚥下評価外来 1 人であった。 ・フットケア外来は 55 名で、新規は 3 名であった。ボトックス 27 件、IBT 療法 1 名、洗脚療法 2 名であった
退院後訪問指導件数 10 件 訪問看護件数 2 件	・退院後新しい環境に適応するための調整を行った後に、在宅スタッフに引き継ぐ。機能低下を最小限にできるような自宅で行える訓練も取り入れる。医療保険での退院後訪問指導には要件があるが、適応のある患者には必ず訪問できるようにする	・退院後訪問指導は 7 件実施した。昨年の 4 件より増えているが目標値には届かなかった。コロナ感染対策目的に、訪問関連は中止した影響が大きかった。 ・訪問看護については、医療保険を適用しようとする介護保険なし、もしくは特定の疾患で通院困難患者に限ること。介護保険での訪問になると、ケアマネの作成するケアプランに沿って介入になる。当院退院の患者さんは介護保険取得者が多いことや、自宅退院された患者さんで認定看護師の加算になる患者さんが少ない為、現実的には介入が難しいという背景がある。
NST ブレ介入患者 15 名 摂食嚥下支援加算 延べ 530 件 病棟訓練実施数 延 13000 人 背損バス実施患者数 10 人	・NST 介入者を病棟で把握し、協働する ・病棟での訓練量を確保し、回復を促進させる ・背損バスを導入する	・NST 新規ブレ介入 2 件と少なかった。摂食嚥下認定看護師と NST 委員会を中心に病棟ラウンドを行い、リハビリスタッフ、病棟スタッフと協働して摂食嚥下支援を行った。 ・摂食嚥下支援加算の件数は 571 件 (R3 年 527 件)であった。 ・1 C F の研修会を行ったため、日常のカンファレンスの中でも参加の視点の目標設定ができている。 ・病棟訓練は延べ 15,025 人とも目標値を上回ることができた。 ・背損バスは C1-2 C3-4 C5 C6 C7-8 5 種類のバスが作成済み。今年度はバス実施 2 名しかできなかったため、次年度の課題とする。
重症率 41.0% 在宅復帰率 85.0% 個別訓練実施数 延 5000 人 実績指数 45%	・介護指導を行い、自宅退院を可能な限り選択できるように支援する ・個別強化訓練を挙げることで、低い値の ADL アプローチする ・認定看護師の活用促進のため、活動日の確保を行う	・重症率は 46.8%、在宅復帰率は 90.5%、実績指数 51.5%であり、全てにおいて回復期リハビリテーション病院 I の施設基準を高い数値で上回ることができた。 ・コロナ感染が落ち着いた際には、面会制限を緩めるなど、感染状況をみながら感染対策コア会議で協議をして決定した。オンラインや密着し面会を取り入れるなどの工夫を行った。 ・個別訓練実施数延べ 1415 人 ・認知症ケア加算介入対象者 168 人で延べ 9,917 件、摂食嚥下支援加算は対象者 82 人で延べ 571 件、排尿ケア支援加算は対象者 79 人で延べ 712 件であった。認定看護師を中心とした各種チームを構成し、多職種がそれぞれの専門性を発揮して介入している。
病院機能評価 査結果 高評価	・各項目について担当を決め、課題を抽出する ・抽出した課題を評価する ・課題に取り組む	・10 月 31 日、11 月 1 日機能評価受審した。 ・2023 年 1 月審査結果は、S と A 評価のみで B 評価以下がない、高い評価で認定。 ・日頃行っている質の高い看護が、データをもて示すことができた。
管理ラダー I 取得 10% II 取得 10%	・看護師長を中心に管理ラダーⅢから構築する。管理ラダーの評価基準・手順を作成し年度末までに主任・看護師長が評価を行うことができるように構築する	・マネジメントラダー 4 名取得。I→4 名 (4%)、II→4 名 (4%)が取得している。今年度の新規取得者はゼロであった。 ・マネジメントラダー新規取得に向け次年度引き続き取り組む。 ・認定看護管理者ファーストレベル受講 2 名、セカンドレベル 1 名の受講があった。 ・認定看護管理者取得 1 名があった。
研修参加件数 25 回/年/人 看護師ラダー I 取得 98% II 取得 85% III 取得 40% IV 10% 介護士ラダーの構築 研究発表 2 件	・集合研修が減っているため、ナースングスキルやオンデマンド研修を使用し、研修機会を設ける。研修参加が少なかった。職員もナースングスキル研修を必須研修にすることで、参加率があがる ・教育委員会を中心に介護士ラダーの構築を行う ・研究発表を促す	・看護師研修参加件数はほぼ目標値の 27.9 回 (R3 年 24.9 回)であった。必須研修はオンライン研修を活用し、受講率を上げていくように取り組んだ。 ・看護師キャリアラダー I 取得 91%、II 取得 73%、III 取得 38%、IV 取得 10%であった。引き続き、取得に向け、取り組む。 ・介護士ラダー構築を行った。取得に向け、4 名が申し込みあり。 ・研究発表は 3 件。日本リハビリテーション看護学会学術大会の誌面発表と広島県看護協会北支部研究発表を行った。 ・日本看護科学学会で発表し、若手優秀演題口頭発表賞の受賞があった。 ・広島県保健師助産師看護師実習指導者講習 1 名参加した。 ・回復期リハビリテーション看護認定コース受講 1 名あり、半年間の実務演習後、認定資格取得予定。
職員満足度評価調査 平均 3.6 夜勤アンケート調査 実施 年休取得日数 平均 10 日/年 離職率 10% 時間外 170 時間/人 メンタルヘルスチェック回数 2 回	・職務満足度調査の低い項目について対策を検討する ・WLB の視点から、時間外の多い職員に対して、仕事の振り分けを行う	・職員満足度評価調査は、看護師は看護協会のチャレンジを実施した。ストレスポイントが下がり、ポジティブポイントの上昇があった。メンタルを理由に 2 名病休があり、退職となった。 ・年休取得は、平均 8.99 日 (R3 年は 9.6 日)であった。コロナ感染が病棟内で発生した影響もあり年休取得率が低下した。 ・離職は 6 名、離職率 6.8%であった。新人看護師の離職は 2 年連続してない状態である。師長、プリセプター、保健師などが協働してメンタルサポートに力を入れている結果と考える。 ・時間外の削減について、R4 年度は看護科合計 4,227 時間、平均 4.3 時間 (R3 年度 2,082 時間、平均 2.1 時間)と比較しても倍増している。重症率があがったことや機能評価受審、コロナ感染クラスター発生などの影響と考える。時間外削減に向けては、令和 5 年度に目標を上げ、プロジェクトチームを結成し看護科全体で取り組むこととする。 ・メンタルヘルスチェックを 6 月と 11 月実施した。実施者数は 6 月 73.8%、11 月 87.9%と前回よりも増えている。6 月と比較して 11 月は「仕事の量的負担」が 1.6 と高くなっており、10 月末に受審した機能評価の影響が考えられる。上司や同僚から得られる評価は全国平均よりも良い結果であった。高ストレス対象者が 6 月は 5 名、11 月は 8 名と増えている。面接などを取り入れメンタルサポートを実施した。

4. 看護科教育
1) 看護師・介護士教育

2022年度 看護科研修一覧 研修年間計画				
-----------------------	--	--	--	--

集合研修 看護科職員全レベル対象

研修名	目的	研修方法	講師	実施日
キャリアアップシステムとサポートについて	キャリアアップシステム(キャリアラダー、マネジメントラダー)について理解し、自らのキャリアアップに対する目標を持ち行動できる	講義	奥田総看護師長 看護教育委員	4/6
看護師の特定行為研修制度について /血糖コントロールに係る薬剤投与関連	看護師の特定行為研修制度について理解する 血糖コントロールに関する知識を身につける	講義	山根看護師長	4/20
BLS	救急蘇生の目的、一次救命の処置方法を理解し、緊急対応に活かすことができる	講義 演習	小倉主任看護師	5/18
皮膚・排泄ケア 【日看協オランダマンド研修】	必須研修 排泄ケアについて理解を深め、実践できる	講義 動画講義	倉本主任看護師	6/15
摂食嚥下障害看護	摂食嚥下障害看護について理解を深め、実践に活かす事ができる	講義 演習	川端看護師長	7/20
認知症看護 必須研修	認知症患者の理解と看護について学びを深めることができる	講義	伊東主任看護師	9/21
高次脳機能障害患者の看護	高次脳機能障害についての知識を高め実践に活かすことができる	講義	山根看護師長	10/19
回復期リハビリテーション看護/ICFの考え方	回復期リハビリテーション看護/ICFについての学びを深め実践に活かすことができる	講義	日高主任看護師	11/16
接遇、患者/職員満足度を高めるには	社会人、専門職として必要な接遇ができる 患者/職員満足度を高めるために何が出来るか考え実行できる	講義 GW	看護の質向上委員	12/21
看護情報	患者が見える看護記録をする事ができる	講義	看護情報委員	1/18
多職種・地域連携、継続看護	回復期から維持期へ退院支援を行った事例について発表し、ケア方法を共有する	発表	1F: 2F: 看護: 介護:	2/15
ポートフォリオ発表会	1年間の看護活動、目標管理を共有する	発表		3/15

部署別研修

研修名	目的	研修方法	講師	実施日
日常生活機能評価 必須研修	日常生活機能評価について理解し、適切な評価をすることができる	講義 動画講義	伊東主任看護師	4月
部署別感染対策	感染対策について学び実践に活用する事ができる	講義 演習	感染対策委員会	8月1月
部署別医療安全	医療安全について学び実践に活用する事ができる	講義 演習	リスクマネジメント委員会	9月3月
ME機器取り扱い扱い	ME機器の使い方お理解し、正しく取り扱う事ができる	講義 演習	医療機器業者	11/25

専門看護研修 ラダーⅡ認定者以上 専門領域受講修了証あり

研修名	目的	研修方法	講師	実施日
皮膚・排泄ケア	より専門的な皮膚・排泄ケアについて学ぶ	講義 動画講義	皮膚・排泄ケアCN リンクNS	6/15
摂食嚥下障害看護	より専門的な摂食嚥下障害看護について学ぶ	講義 動画講義	摂食嚥下障害看護CN コアNS	7/20
認知症看護	より専門的な認知症看護について学ぶ	講義 動画講義	認知症看護CNリンクNS	9/21
脳卒中リハビリテーション看護	コミュニケーション障害患者への看護など脳卒中患者に必要なケアについて学ぶ	講義 動画講義	脳卒中看護CNリンクNS	10/19
回復期リハビリテーション看護	より専門的な回復期リハビリテーション看護について学ぶ	講義 動画講義	回復期リハ認定看護師	11/16

卒後・入職後2年目看護職員研修（ラダーⅡ対象必須研修）

研修名	内容	研修方法	講師・担当者	実施日
看護過程・看護診断・ケーススタディ	事例検討：脳梗塞	講義 演習	情報委員	5/27
【ナースिंगスキル】専門領域スキルアップ フィジカルアセスメント	看護師向け身体診察 初級編 中級編 アナフィラキシーショック 急変対応 事例検討：アナフィラキシーショック	動画講義 GW	教育委員会	7/15
社会人基礎力	社会人基礎力を強化するための演習 必須文献：社会人基礎力を鍛える 新人研修ワークブック	講義 演習	総看護師長 教育委員	10/21
リーダー業務 オリエンテーション	ケーススタディ	講義 演習	教育委員会	12/16
【日看協オンデマンド研修】 ラダーⅡレベル到達のための研修	JNAラダーⅡ到達のための研修 「地域包括ケアシステムを形成する施設・職種・制度」 「ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスとその理解」	動画講義・GW 演習	教育委員会	2/3
リフレクション研修 ケーススタディ	リフレクション ケーススタディ作成	GW 演習	教育委員会	3/3

キャリアラダーⅢ対象年間教育プログラム（看護師経験3年程度～）

研修名	内容	研修方法	講師・担当者	実施日
【日看協オンデマンド研修】 JNAラダーⅢ到達のための研修 リハビリテーション看護実践場面における倫理的行動について	「ケアの受け手の全体像把握のためのアセスメントの統合」 「ケアの改善のためのエビデンスの活用」 「ケアの受け手の意思決定における権利擁護」 リハビリテーション看護実践場面における倫理的行動について	動画講義 GW	教育委員会	8/19
回復期リハビリテーション看護 【日看協オンデマンド研修】 JNAラダーⅢ到達のための研修	レポート提出 回復期リハビリテーション看護 「協働におけるコンサルテーションと多職種カンファレンス」 「自施設周辺の地域包括ケアシステムの理解」	講義 動画講義	回復期リハビリテーション 看護認定看護師 教育委員会	11/11
【院外】 広島市立病院機構主催 ラダーⅡ取得者研修	「キャリアデザインとキャリア開発」 職場の変化に対応できる知識とスキルを学び、主体的に行動できる人材を育成する	講義 GW 研修後課題	広島市立病院機構 大西 恵子講師 看護教育担当者	12/9 12/16
【院外】 広島県看護協会 実地指導者研修	実地指導者が新人看護職員の職場への適応状況を把握し、基本的な看護技術の指導 および精神的支援を行うために必要な能力を修得する 実地指導者が、所属部署の新人看護職員研修計画に沿って教育担当者、部署管理者 とともに部署における新人看護職員の個別の研修プログラムを立案、実施、評価す るために必要な能力を修得する	講義 演習 GW	広島県看護協会講師	9月 ～11月
【日看協オンデマンド研修】 看護管理研修 JNAラダーⅢ到達のための研修 【ナースिंगスキル】専門領域スキルアップ	看護管理研修（受講免除制度あり） 「急変の予測と救命救急場面の対応」「看取りにおける尊厳の尊重と苦痛の緩和」 *自己課題：研修日までに視聴しておくこと 「家族看護概論」第1～3回 「家族看護応用編」第1～2回	講義 動画講義	杉岡看護師長 教育委員	1/27
リフレクション研修	「当院におけるラダーⅢレベルの看護実践能力を持つ看護師の役割」	演習 GW	教育委員会 主任看護師	3/3

集合研修 介護職員全員対象

研修名	目的	内 容	研修方法	講師担当者	実施日
回復期における介護士の役割	回復期リハビリ病院の特性及び介護の基本10項目宣言を学び介護士としての役割を理解する事ができる	当施設での介護士としての役割 割回復期ケア10項目宣言	講義	質向上委員 日高主任看護師 守安介護士	4/28
記録の書き方	経時、SOAPで記録が書く事ができる	記録の書き方	講義 演習	青柳介護士 情報委員	5/26
回復期介護過程の展開	介護過程を展開し課題に即した介入する事ができる	介護過程のプロセス	講義 演習	新枝介護士 倉本主任看護師	6/23
研修発表	ファーストステップ研修を受講して学んだことと、当院で働く介護士として必要なことを学ぶ事ができる	研修報告 質疑応答	発表 講義	大野介護士	7/28
急変時の対応	急変時の対応について理解し介護士としての動きを学ぶ事ができる	急変時における対応の仕方	講義 演習	岩井介護士 向井主任看護師	9/22
セーフティマネジメント	セーフティマネジメントを理解し、その中で介護士の役割を考え事ができる。チームで患者へのケアの質の向上に努めることができる。様々な場面のFIMを理解する事ができる。日常生活の様々な場面での介入方法、自立に向けての関わり方について理解する事ができる。	連携、記録、報告、共有の必要性や対応方法	講義 演習	白鞘介護士	10/27
FIM、日常生活援助について	様々な場面のFIMを理解する事ができる。日常生活の様々な場面での介入方法、自立に向けての関わり方について理解する事ができる。	日常生活の介入方法	講義 演習	宗近介護士	11/24
コミュニケーションについて（全般）	思考、家族や職場内との適切なコミュニケーションを図り、信頼関係を醸成する事ができる。適切な身体介護や非言語コミュニケーションのあり方を理解し実行すると共に後輩の指導ができる。	コミュニケーションの基本的理解と後輩指導	講義 演習	赤木介護士	12/22
介護士の倫理の実践的理解と展開	介護職としての倫理・価値及び介護職の支援のあり方について理解する事ができる。職業倫理を理解した上で、介護の実践場面においてどのように活かされるか具体的に説明ができる。	介護職の倫理について	講義 演習	藤村介護士	1/26
ケア場面の気づきと助言	患者が安全快適に過ごせる環境を提供するため、気づきの意識や関心を持つ事ができる。	ケア場面での気づきや助言	講義 演習	桐生介護士	2/16
ポートフォリオの発表（1年目） 介護過程の発表（2年目）	1年間の介護活動を共有する事ができる 介護過程を理解する事ができ、他職員の介護過程の展開を共有する事ができる	ポートフォリオの発表 介護過程の発表	発表 討議	介護士担当主任	3/23
感染	感染の知識・技術を身につける事ができる	感染について	講義	感染委員 院内必須研修参加	随時
リスクマネジメント	リスクの知識・技術を身につける事ができる 抑制について学ぶ事ができる	リスクマネジメントについて	講義	リスク委員 院内必須研修参加	随時

卒後1年目介護職員研修

研修名	目的	内 容	研修方法	講師	実施日
採用時研修	病院の組織を知り、社会人の一員として職務を責任持って遂行できる 介護専門職としての役割を身につける	広島市立リハビリテーション病院 介護職員としての心構え／ 接遇／倫理／記録／電子カルテ ／リハ看護／介護技術／医療安全／感染管理	体験学習 実習 講義	別紙	4/1～4/9
2022年度新人教育研修年間プログラム	新規採用介護職員の知識、技術の向上	教育研修年間プログラムパスに沿って随時研修実施	参加型	看護科職員	随時

2) 新人教育

2022年度 広島市立リハビリテーション病院 看護科新人教育プログラム

開催日	時間	研修テーマ	研修内容	研修目標	講師	対象者	ラダー
4/1 (金)	8:30～ 17:15	辞令交付書類作成 オリエンテーション 組織とシステムの説明	別紙参照、各部署の挨拶と説明	当院における組織と各システムの概要が理解できる	加世田院長 総看護師長	全部門	組織
4/4 (月)	8:30～ 9:30	看護科職員としての役割 (理念・基本方針・看護科目標)	病院理念のもと、看護科の目指すものを示す 看護協会入会ほか各種手続き 図書館の利用について	当院看護科における看護目標・方針を理解し、自らの看護活動に活かすことができる 看護協会入会・出勤簿・年休簿・勤務表 タクシーチケット・図書館の利用について 理解することができる	奥田 総看護師長	看護科	ニーズ
	9:30～ 10:30	看護科教育について	看護科の教育体制について ・教育計画・ナースングススキル ・ポートフォリオ・キャリアラダー	看護科における教育体制やその支援について理解することができる	川端師長	看護科	ニーズ 教育
	10:30～ 12:00	病棟オリエンテーション プリセプター紹介	病棟説明 各部署説明 挨拶	病棟や各部署の機能・構造について理解できる プリセプターとの良好な関係を築くことができる	プリセプター	看護科	組織
	13:00～ 14:15	回復期リハビリテーション 看護/FIM:☆	回復期リハビリテーション看護について FIMについて	回復期リハビリテーション看護に必要な知識・技術について学びを深める FIMについて学びを深める	日高主任	看護科	ニーズ
	14:15～ 15:15	ICFの考え方:☆	ICFの考え方	リハビリテーション看護に必要なICFの考え方について理解する	日高主任	看護科	ニーズ
	15:15～ 16:15	看護・介護倫理	看護／介護実践の中での倫理的課題について	日々の看護実践の中での倫理的課題について意識付けできる	濱中主任	看護科	意思
	16:15～ 17:15	退院支援、訪問看護	退院調整・在宅支援について	退院支援、退院後訪問指導の実際を知る。	毛利看護師	看護科	ケア
4/5 (火)	8:30～ 10:00	医療安全	医療安全に関する基本的な考え方、インシデント・アクシデントの報告 セーフマスタートーインシデント システム入力方法の説明:☆	医療安全に関する基礎を学び、事故のない看護活動ができる インシデントシステムの入力方法および操作方法について理解する	杉岡師長	全部門	ケア
	10:00～ 12:30	臨床モデルを用いた新人看護師研修「看護の気づき」1回目	臨床判断の基礎能力を養う（演習）	看護実践が臨床判断に基づき実施されていることを理解し、次の看護実践につながる有効な気づきをする。	川端師長 濱中主任	看護科	ニーズ ケア
	13:30～ 14:30	感染対策	感染対策に関する基本的な考え方、臨床での感染防止対策の実際について	感染対策についての基本的知識、臨床での感染防止対策の実際について理解する	白井師長	全部門	ケア
	14:30～ 15:30	感染対策実技	実技	感染対策の基礎から実際までを学び、院内感染防止の具体策が理解できる	白井師長 梶原主任	全部門	ケア
	15:30～ 16:00	職員の健康管理とメンタルサポートについて	当院における職員の健康管理とメンタルサポートについて	当院の健康管理やメンタルサポートについて理解する	西谷保健師	全部門	組織
	16:00～ 16:35	放射線の取り扱い	放射線被曝・MRIの安全対策について	放射線被曝・MRIの安全対策を知る	診療 放射線技師	全部門	協働
	16:35～ 16:55	当院で行う検査について	採血やエコー検査などの検査上の注意事項について	当院の主な検査や検査時の注意事項について	臨床検査 技師	全部門	協働
	16:55～ 17:15	薬剤の取り扱い	薬剤科紹介と薬剤管理について	薬剤の安全な取り扱いを知る	薬剤師	全部門	協働

4/6 (水)	8:30～ 10:00	看護記録・介護記録電子 カルテへの入力	看護記録の目的・機能・構成要素について 看護診断、看護計画、評価 (NOC・NIC) ペーパーペイシェントによる事例の介 護過程の展開	看護記録の目的を理解し、記録することができ 看護計画を正確に立案し、評価していく概念がわかる 記録をカルテへ入力できる	中嶋看護師	看護科	ケア
	10:00～ 11:00	看護必要度/日常生活機能 評価	看護必要度/日常生活機能評価について	看護必要度/日常生活機能評価について理解し、評価で きる	伊東主任	看護師	ケア
	11:00～ 12:10	情報管理	個人情報保護・情報の取り扱いについて (動画講義) 1. 本人・家族との情報のやり取り 2. 医療従事者間の情報のやり取り 3. 情報倫理	個人情報保護法について、個人情報とは何か、医療従 事者が日々取り扱う情報とはどのようなものを理解 する	杉岡師長	全部門	ニーズ
4/7 (木)	13:10～ 13:45	医薬品安全使用のため の業務手順書について ☆	医薬品安全使用のための業務手順書に ついて (必須研修)	医薬品安全使用のための業務手順書について	薬剤師	看護科	ケア
	13:45～ 15:45	脳卒中リハビリテーシ ョン看護:☆	リハビリテーション看護の現状・障害、 専門的役割について	リハビリテーション看護の実践者として、基礎・基本 となる知識を習得する	山根師長	看護科	ケア
	15:45～ 17:15	リハ栄養/NST 摂食嚥下障害看護:☆	リハ栄養・NSTについて (動画講義) ・病院で働く職員に向けた臨床倫理 1. 臨床倫理総論 2. 職員倫理	リハ栄養・NST が理解できる 摂食嚥下障害患者ケアの知識と技術を理解し実践する	川端師長	看護科	ケア
4/8 (金)	8:30～ 9:30	職員倫理	職員倫理について (動画講義) ・病院で働く職員に向けた臨床倫理 1. 臨床倫理総論 2. 職員倫理	臨床倫理の基本的な職員倫理について理解できる	事務室	全部門	意思
	9:30～ 10:45	排泄ケア:☆	排泄障害の病態生理 排泄障害患者の ケアの概念	排泄障害患者のケアの知識と技術を理解し、実践する	倉本主任	看護科	ケア
	10:45～ 12:00	褥瘡ケア	褥瘡発生のメカニズムと予防・ケアの技 術について	褥瘡の発生から治療までの過程が理解でき、治療法・ 患者教育に関する知識を学び実践する	倉本主任	看護科	ケア
4/11 (月)	13:00～ 15:00	急変時の対応	患者の急変時の対応について	患者の急変時のアセスメントと救急看護を実施する	小倉主任 向井主任	全部門	ニーズ
	15:00～ 17:15	認知症ケア:☆	認知症の病態生理 認知症患者のケア	認知症患者のケアに関する知識と技術を理解する	伊東主任	看護科	ケア
	8:30～ 17:15	基礎看護技術 ME 機器について	基礎看護技術について ME 機器の取り扱いについて (研修室)	看護に必要な知識、技術、態度を見につけ、看護業務 手順に沿って、指導を受けながら安全かつ確実に看護技 術を実施することができ *ファイジカルアセスメントおよび演習含む 病棟で利用するME 機器について知ることができる	プリセプタ ー	看護師	ケア
4/11 (月)	8:30～ 17:15	機構全体研修	広島市立病院機構の理念等 (オンデマンド研修)	当機構の職員としての役割や責任、職員へのサポート 体制について理解出来る	事務室	全部門	組織

☆：看護師転勤者・中途採用者参加項目（希望者のみ）

リーダー：ニーズ→ニーズをとらえる力、ケア→ケアする力、協調→協調する力、意思→意思決定を支える力、組織→組織的役割遂行能力、教育→自己教育・研究能力

3) 資格（看護協会、学会認定等）

資格	人数	備考
認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了	16	広島県看護協会
同セカンドレベル修了	6	広島県看護協会
同サードレベル修了	1	広島県看護協会
認定看護師	5	日本看護協会
認定看護管理者	1	日本看護協会
特定行為研修共通科目修了	1	広島大学病院
回復期リハビリテーション看護師	2	回復期リハ病棟協会
回復期リハビリテーション認定看護師研修終了	1	回復期リハ病棟協会
医療安全管理者養成研修修了者	10	広島県看護協会
感染管理研修修了者	10	広島県看護協会
認知症ケア研修	8	広島県看護協会
診療情報管理士	1	四病院団体協議会
医療フットケアスペシャリスト	1	学会認定
災害支援ナース	4	広島県看護協会
実習指導者養成講習会修了者	6	広島県看護協会
社会福祉士	6	広島県
精神保健福祉士	1	広島県
介護支援専門員	8	広島県
介護福祉士	1	広島県
介護福祉士実習指導者講習会修了	7	広島介護福祉士会
介護福祉士ファーストステップ研修修了	3	広島介護福祉士会
看護教員資格者	1	広島県
大学院修士課程修了	2	大学院
大学院修士課程（在学中）	1	大学院
経肛門の洗腸療法講習修了	3	学会認定
排尿自立支援研修修了	3	大阪府看護協会
特定高圧ガス取扱責任者 液体窒素	1	高圧ガス保安協会

4) 院内資格

ラダー取得者

キャリアラダー	人数	%	マネジメントラダー	人数	%
レベルⅠ 取得者	60 人	90%	レベルⅠ 取得者	4 人	4%
レベルⅡ 取得者	49 人	73%	レベルⅡ 取得者	4 人	4%
レベルⅢ 取得者	25 人	37%	レベルⅢ 取得者	0 人	0%
レベルⅣ 取得者	7 人	10%	レベルⅣ 取得者	0 人	0%

院内認定看護師

摂食嚥下障害看護	3 人	皮膚排泄	1 人
脳卒中リハビリテーション看護	3 人	認知症看護	1 人

5. 看護活動

1) 認定看護師活動

2022 年度 認定看護師活動					
分野	名前・取得年・職位	実践		指導	相談
摂食嚥下障害看護	川端 直子 2010(平成 22)年 看護師長	実践 592 件 加算対象者 82 名 延べ 571 件ケア	院内	教育・指導 71 件 4 月 新人職員研修講師 7 月 看護科研修 講師	相談 72 件 摂食嚥下カンファレンス 1 回/週開催 摂食嚥下ケアミーティング 1 回/月開催
			院外	NPO 法人日本リハビリテーション看護学会 理事 POTT プロジェクト副代表 5 月 POTT プロジェクト 全国大会 司会進行 1 月 月間 リハビリナース執筆 2 月 POTT プログラム書籍執筆	
脳卒中看護	山根 ゆかり 2012(平成 24 年) 2021 (令和 3 年) 特定行為研修終了 看護師長	実践 21 件 摂食嚥下機能回復 体制加算 排尿自立支援加算	院内	教育・指導 16 件 4 月 新人職員研修 講師 4 月 看護科研修 講師 10 月 看護科研修 講師	相談 25 件 摂食嚥下カンファレンス 1 回/週 開催 排尿ケアカンファレンス 1 回/週 開催
			院外	7 月 市政出前講座 講師 8 月 安佐准看護学院 講師 9 月 安佐准看護学院 講師 10 月 安佐准看護学院 講師	
皮膚・排泄ケア	倉本 美和 2014(平成 26 年) 主任看護師	実践 876 件 フットケア外来 55 件 排尿自立支援加算 (週 1 回 200 点) 延べ 712 件	院内	教育・指導 83 件 4 月 新人職員研修 講師 6 月 看護科研修 講師 3 月 院内教育研修 講師	相談 88 件 排尿自立支援加算 ケアカンファレンス 1 回/週 開催 フットケア外来 1 回/週 開催
			院外	NPO 法人日本コンチネン協会 中四国支部 副支部長 4 月 広島国際大学薬学部 講師 7 月 NPO 法人コンチネン協会 講師	
認知症看護	伊東 有美子 2016(平成 28 年) 主任看護師	実践 449 件 認知症ケア加算 1 加算延べ 9,917 件	院内	教育・指導 98 件 4 月 新人職員研修 講師 9 月 院内職員必須研修 講師	相談 140 件 認知症ケアカンファレンス 1 回/週開催
			院外	5 月～6 月 10 月～11 月 広島市立看護専門学校 講師 7 月 (福山会場) 10 月 (広島会場) 看護職員対象認知対応能力向上研修 ファシリテーター 9 月 広島市立看護専門学校第一看護学科試験 12 月 広島市立看護専門学校第二看護学科試験 3 月 舟入市民病院職員研修講師	
感染管理	白井 亜紀 2022 年 (令和 4 年) 看護師長	感染対策向上加算 3 サーベイランス ICT ラウンド	院内	4 月 新人職員研修 講師 8 月 院内職員必須研修 講師 1 月 院内職員必須研修 講師 手指衛生ラウンド	相談 49 件
			院外	6 月 広島市民病院 感染管理 認定看護師ラウンド 合同カンファレンス 4 回/年	

回復期リハビリテーション看護	日高 タ子 2013（平成 25 年） 主任看護師	脊損パス 2 件	院内	4 月 新人研修 講師 7 月 ラダーⅡ対象者研修 講師 11 月 ラダーⅢ対象者研修 講師 11 月 看護科研修 講師 12 月 FIM 研修	多職種との協働 FIM ワーキング主催
			院外	5 月 安佐准看護学院 講師 10 月 安佐准看護学院 講師	

2) 学会

学会発表

月	氏名	タイトル	主催
R4.11.21 ～ 12.20 WEB 開催	天野春菜	回復期病棟から在宅退院した脳卒中患者に生じた心理的变化の要因～退院前指導から退院後指導までの患者との関わりを中心に～	日本リハビリテーション看護学会 第 34 回 学術大会
R4.12.3	徳重憲幸	在宅脳卒中患者の服薬アドヒアランスに影響する要因と家族機能の特徴：記述的研究	日本看護科学学会 学術集会 若手優秀演題口頭発表賞受賞
R5.1.28	天野春菜	回復期病棟から在宅退院した脳卒中患者に生じた心理的变化の要因～退院前指導から退院後指導までの患者との関わりを中心に～	広島県看護協会 令和 4 年度 広島北支部看護研究発表会

3) 社会貢献

	社会的活動	名前	役割	の主催
1	広島県看護協会北支部運営	奥田加世	支部長	広島県看護協会北支部
2	広島地方部会運営	山根ゆかり	役員	日本脳神経看護研究学会
3	日本リハビリテーション看護学会 運営	川端直子	理事	日本リハビリテーション 看護学会
4	はつかいち暮らしと看取りの サポーター研修会	川端直子	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
5	食べる困りごと相談	川端直子	運営委員	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
6	広島市立病院機構 教育担当者	川端直子	運営委員	広島市立病院機構
7	研修計画などプロジェクト運営	川端直子	副代表	POTT プロジェクト
8	介護レストラン（廿日市市）	川端直子	副実行委員 長	はつかいち暮らしと看取りの サポーター
9	5 施設指導者研修会運営	向井康人	運営委員	5 施設指導者研修会
10	5 施設指導者研修会運営	梶原正子	運営委員	5 施設指導者研修会
11	広島県看護協会北支部運営	小倉桂子	総務	広島県看護協会北支部
12	企画運営	倉本美和	副支部長	NPO 法人コンチネンス協会 中四国支部

4) 講師

	研修名	名前	年月日	主催
1	臨床看護概論Ⅱ (リハビリテーション看護)	日高夕子	R4.5.30	安佐准看護学院
2	基礎看護技術 (日常生活援助Ⅳ)	向井康人	R4. 9～12	安佐准看護学院
3	成人看護Ⅲ	山根ゆかり	R4.8/31.9/7,10/12	安佐准看護学院
4	成人看護Ⅰ 呼吸器看護	天野春奈	R5.1/17.24.31.2/7	安佐准看護学院
5	成人看護Ⅰ 内分泌看護	待鳥綾香	R5.1/24 .2/7	安佐准看護学院
6	回復期リハビリテーションの看護	奥田加世 日高夕子	R4. 10.18	安佐准看護学院
7	市政出前講座 「脳卒中のリハビリテーション」	山根ゆかり	R4.7.13	広島市
8	5 施設合同 実習指導者研修 パネルディスカッション ～中堅看護師育成～	川端直子	R4.10.13	広島市立看護専門学校
9	いきいき子育てナースカフェ	三戸麻由	R4.8.31	広島県看護協会
10	老年看護方法論Ⅱ 認知症看護	伊東有美子	R4.5～6	広島市立看護専門学校 一看
11	老年看護方法論Ⅱ 認知症看護	伊東有美子	R4.10～11	広島市立看護専門学校 二看
12	認知症患者の理解とケアのヒント	伊東有美子	R5.3.9	舟入市民病院
13	褥瘡ケアについて	倉本実和	R4.4.21	広島国際大学
14	褥瘡ケアについて	倉本実和	R4.7.30	NPO 法人コンチネンツ協会

6. 臨地実習受け入れ校 (延べ人数)

令和4年臨地実習受入学校一覧		
学校名	分野	人数
広島市立看護専門学校	基礎漢学Ⅰ-1 Ⅰ-2	感染対策のために中止
	看護の統合と実践	245 人
安田女子大学看護学部	看護の統合と実践	感染対策のために中止
	高齢者看護学	感染対策のために中止
安佐准看護学院		学校にて講義
合計 (延べ人数)		245 人